

令和 7 年度 第 7 回

# 日南市教育委員会

## 会議録

令和 7 年 10 月 23 日(木) 午後 3 時 15 分から  
日南市役所別館 2 階会議室 5

1 会議の名称 令和7年度教育委員会 第7回会議（定例）

2 会議日時 令和7年10月23日（木）  
午後3時00分から午後4時30分まで

3 出欠確認

（1）出席委員 都甲政文、別府信一、佐藤泰信、谷口智子  
（2）事務局 教育部長兼学校教育課課長  
学校教育課学校教育担当監  
生涯学習課課長  
学校教育課管理係主任主事  
欠席 八木真紀子  
学校教育課課長補佐

4 場所 日南市役所別館2階会議室5

5 傍聴者 1名

6 開会

【都甲教育長】

「それでは、令和7年度第7回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」

7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】

「出席者の確認をいたします。本日は八木委員が欠席となります。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【鬼東部長】

「事務局は、上村課長補佐が別件協議のため、欠席です。」

【都甲教育長】

「本日傍聴者は1名ですね、よろしくお願いします。」

8 活動報告

（1）教育長活動報告

## 【都甲教育長】

- ・まず9月24日、令和8年4月1日の人事異動について、県の方針の説明がありました。これを受けて、校長たちへの説明をするということになります。流れとしましては、先生たちに異動調書を配って、今月いっぱい校長に提出して、教育委員会に来て、それを取りまとめて人事作業が始まるということになります。
- ・それから9月25日に議会の一般質問が始まりました。
- ・そして28日、小村寿太郎生誕170周年の記念講演で、歴史研究家の磯田さんのお話だったんですけども、非常に気さくな方で、市長について敬老会に行かれてですね、北郷の。一緒に3人で食事をしながら、市長が「もう一件行ってくる」って言ったら、一緒に行つていいかと言われて、行かれたんですよ。非常に興味があったみたいで。そして会場にぎりぎりに到着して、何をするのかなと思ったら、早速どんどんステージに出ていって話をして、敬老会に行ってきましたみたいなことを言ってですね。

話を聞かれた方もいらっしゃるかと思いますけど、非常に面白くて。いろんな文献をなぞるような形だったんですけども、我々市民は小村寿太郎の知らない面がいっぱいあるんですよね。その生誕の地っていうのはあるんだけど、やっぱり磯田先生が言われたのは、あなたたちは小村寿太郎の出身地にいるっていうだけじゃダメだと。やっぱり知らなければならないということで、非常に面白い話をしてもらって。ハートフルがほぼ満員の入り具合で、そして前の方なんか、彼がやっている歴史番組を見ている人はほとんど手を挙げてですね。中には最後にプレゼントもあって。だから年齢層を見てみると、やっぱり歴史ものっていうのは、割と年齢の高い方が見ているんだなあと思ってですね。非常に良い人を呼んでもらって、楽しかったです。

- ・それから10月1日、校長会ですけれども、私が前回の校長会にコロナで出られなかつたので、ポーツマスに行ったこととかですね、それから人事の説明もあったものですから、人事について、先生たちの気持ちを聞きながら進めてくれということで話をしました。
- ・10月6日、フェニックスリーグが始まって、これは今月いっぱいなんですけども、記念品を渡さなければならないんですけど、なぜか私に始球式が当たってですね。私は一応野球部の顧問だったんですけど、30年ぐらい投げていなかったので、どっちかわからぬとかですね。大変でした、もうドキドキで。でも面白かったです。
- ・それから10月8日、中学校制服リユース事業説明。これ、今年で一応新しい制服が出揃うんですよ、3学年。今後はやっぱりこういう時代だから、うまく回転させていこうということで、社協がそういう考え方を持ってくださっていて、その打ち合わせに来られました。これから進めていきたいということで、それを考えてのやっぱり制服でもあるので、例えば前身頃を変えられるわけですね、ボタンの付け替えで。男の子も女の子も同じものをつけるとかですね。そういうものもあるものですから、うまくこれをスタートさせたいなと。でも渡す中では、結局欲しい人がそのサイズに合うかっていうのがないとうまくいかないわけですよ。だから、ちょっと物をストックする時間が要るんじゃないかなっていうことで。だから、どうなっているかわからないけれど、今年立ち上げて今年からあげます

よって言ったら、あまり上手くいかないわけですよね。そうなってくると時間が決まっているので、例えばぎりぎりまでいって、あなたに入りませんって言ったら、そこから買わなきゃいけない。だから、社協がどう考えているかはわかりませんけれども、少し時間かけていって、しっかりストックをしていく必要があるのかなっていうことを話したところでした。

・それから翌日 10 月 9 日、日南学園がポーツマス市と交流をするということで、語学研修の壮行会に行きました。中高生合わせて 14 名で先生が 2 名ということで、学校教育課に参加生徒のお母さんがいるんですけど、非常に楽しかったと帰ってきたみたいです。

・10 月 9 日、大窪小に行ってきました。今回の議会で閉校になるっていうことがしっかり公になったものですから、今後のことを校長先生にお願いしました。つまり、閉校に向けていろいろ大変でしょうけどよろしくお願いします、ということですね。校長先生がおっしゃったのは、何か悲しいような閉校にしたくないって。やっぱり未来に向かっていくような閉校式にしていきたいということをおっしゃったので、そのために我々は全面的にバックアップすると。金銭面もそうですけれども、いろんなところでバックアップしますということで約束をしてきました。

・続いて、細田小学校への単独訪問でした。これはまた委員のお 2 人からですね、後でお話を聞かせていただきたいと思います。

・9 月議会も終わりまして 10 月 11 日、陸上自衛隊の第 8 師団の演奏会。これは当初の予定をずらしてここになったんですけども、非常にやっぱりよかったです。これもハートフルがほぼ満員で、楽しかったですね。やっぱりなかなか聞けないですし、質の高い演奏を聞かせてもらって、市民の皆さんも満足して帰られたようでした。

・翌日 12 日は市民スポーツ大会の総合開会式がありました。体育館に各団体集まつもらって、全体で合わせると 3000 名ほど参加される大会なんですけれども、その開会式でした。コロナの中止を挟んで、今回が第 17 回ということで、合わせてスポーツ功労の方 4 名、それから全国大会等で優秀な成績を修めた方 3 名の表彰もスポーツ協会から出されました。

・週明けて 14 日火曜日、単独訪問で桜ヶ丘小学校を訪問いたしました。また後で感想等お願いします。

・それから 15 日から 17 日まで、部長と 2 人で九州都市教育長協議会総会に行かせてもらいました。飯塚市がありました。飯塚市は昔筑豊で、麻生太郎さんの地元ですね。3 日目の市内の研修でいろいろ回ったんですが、学校で言えば、田んぼの真ん中に一貫校が立っていました。ドーンと立派な校舎を作って、すごいですよ。ICT は部屋に行くと全面が青とかですね、青い壁で、机も個人のものをくっつけてグループができたりするようなやつで。小学校だったんですけども、6 年生あたりが学校の紹介のビデオを作ろうとかですね。昔あったコンピューターじゃなくて、こんな広い画面のパソコンが置いてあって、あと 3D プリンターとかいうのがあったりとか。いくら使ってんだって思いますよね。そして見ると麻生何とかって書いてありました。その会社がやっているんでしょうね。学校を

作るのに 60 億かかったそうです。田んぼも買い取ってね。力を入れているなと思ってですね。何と市長さんが 2 代続けて教育長から上がったという話で、あんまり聞かないんですけど、だから力が入るのかなと思ってですね。博多や福岡市から電車で 1 時間ぐらいで、人口 12 万人ぐらいの町なんんですけど、非常に参考になりました。

・18 日の毎年飫肥城下まつりに合わせて行われる那覇市・犬山市との姉妹都市交流会。私は夜の部に参加したんですけども、両市の市長とともにみんな来て、那覇の市長さんとはちょっと終わった後に話したんですけど。ドジャースのロバーツ監督は那覇出身で、那覇で生まれたんですよね。去年度優勝した後に名誉市民になられたわけですけども、また呼びたいという話でした。あと犬山は子どもたちが行ったり来たりしていますので、今年うちの日南の子が行かせてもらったので、市長さんにはお礼を言っておきました。

・それから 10 月 21 日ですけども、単独訪問で大窪小学校に行かせていただきました。また感想をお願いします。

## （2）委員活動報告

### 【別府委員】

10 月 1 日、こちらは毎年の取組なんですが、社会福祉協議会の募金活動に参加してきました。今回も生協と戸村の吾田店 2 ヶ所で行ったんですけども、大変多くの方に募金をいただきました。

10 月 9 日、細田小学校の学校訪問に参加いたしました。全児童 19 名に対し、不登校傾向のお子さんが 5 名と、比較的ちょっと多い様子だったんですけども、先生方も熱心に対応されている様子で安心させていただきました。また読書活動にも積極的に取り組まれているとのことで、今まで図書館に全く行かなかった子供たちが図書館に足を運んでおり、本を読む児童が確実に増えているとのことでした。

10 月 14 日、桜ヶ丘小学校の学校訪問に行きました。公務の負担軽減に向けて、ICT 機器や AI の活用が進められているとのことで、また中心になって研究を進めておられる先生が事例の紹介などをまとめた通信を発行されるなど熱心に取り組まれており、今後の働き方改革の進展に向けて大きく期待ができるのではと思いました。

10 月 15 日、共同募金審査委員会が行われまして出席いたしました。これまで審査員長を商工会議所の落合さんが務められておりましたが、3 月のご退職に伴い、同日より私の方がこの役を引き継がせていただくことになりました。また改めて身を引き締めてしっかりと努めて参りたいと思います。

続きまして審査会終了後、共同募金委員長副委員長会を行いました。こちらの方で、次年度の助成事業の要望についての審査を行ったところです。

10 月 21 日、大窪小学校の学校訪問に行って参りました。大窪小学校においては、何といっても児童数が 2 名という、そして本年度をもって閉校を迎える学校ということで、大変感慨深い訪問となりました。先生方はもちろん、地域の皆さんと一緒に子どもたちを育

てておられる様子がとても伝わってきて、とても温かさに満ちた学びの場であることを強く感じた、そんな学校訪問でございました。

### 【佐藤委員】

学校訪問が始まりまして、今回に限らずなんですけども、校長先生がいらっしゃって、教頭先生、教務主任、研究主任、生徒指導主任。やっぱり各学校にその核になる先生がしっかりいらっしゃって、非常に心強いなと。別府委員もおっしゃいましたけど、公務に生成 AI を使うって、やっぱりこれは簡単ではないと思うんですけども、しっかり研究されている先生が具体的に提案されて、それが広がるということで、やっぱり各学校にきちんとそういった体制ができているというのは素晴らしいと思いました。

1つ気になったのが、言葉尻を捉えてどうのっていうつもりはさらさらないんですけど、小学校1年生はまだ人間になってないとか、動物的ななんとかっていうのをおっしゃられたところがあって。そこはですね、幼児教育に携わっている者としては、やっぱり課題だなあと、もう本当にそうだと思うんですよ。だけど、子どもたちをやっぱりそういう至らないものというふうに見るんじゃなくて、子どもは子どもの感性があって、大人とは確かに違う人間です。だけど大人とは違う子どもという、ちゃんとした人格のある人間なんで、そこをどうやっぱり変えていくかというか、認識を変えていただくかっていうところが幼児教育に携わる者としての課題もあるし、そこがやっぱり変わらなければ、幼保小連携というのは本当の意味で本物にならないんじゃないかなっていうのはあったので。お気持ちは非常にわかります。わかりますけど、ちょっとそこがやっぱり課題だなっていうのは認識したところでした。

それから10月21日、GIGAスクールの構想推進協議会にズームで参加しました。宮大の先生と南九大の先生とがお話をされたんですけども、かなり具体的に提案されてですね。南九大の先生はタイピング指導をしっかりやらないと駄目だと。結局自分の気持ちや考えを持っていても、タイピングがやっぱり上手じゃないと入力がおろそかになって、結局手書きの方がいいっていうことになってしまします。で、どっちかを選ぶっていうのは大事な視点なんですけど、そのタイピング苦手だからICTから離れてしまうということであれば、ちょっとそこは違うだろうということで。日本はそういった体系的に、タイピング含めていろいろなリテラシーを教育するのがまだ不十分だと、諸外国に比べるとですね。そういうことで確かにそうかなというふうに思って、私が教員時代もタイピングを結構やらせていました。何十年前。でもやっぱりいまだにね、そういうことは基本的なこととして大事なんだなと。文具として使うということを考えるとね、確かにそうだなというふうに思います。ただやっぱり気になるのは、子供の使える時間って決まっているじゃないですか。当然そこにICT活用ということで新しいスキルを入れていくとなると、今まで体験したことがおろそかになりますよね。いろんな講演とか聞くと、やっぱり特に幼少期から小学校にかけては五感をフルに使った体験活動が重要で、その体験活動があるからこそ、大人になっていろん

なひらめきとか発想があって、その発想を形にするのが生成AIなんで。やっぱりそういういろんなアイデアとか発想がなければ、生成AIがどんなにこう広まって活用が進んでもみんな同じようなものしか作らないわけですよ。そこにやっぱりその人なりの思いとかアイデアとかそういうのが入ると、唯一無二の素晴らしい作品がAIの力を借りて生まれるわけだから、そのバランスですね。そこをどう考えたらいいのかなっていうのをちょっと思っています。

### 【谷口委員】

私はまず9月28日日曜日の磯田道史先生の講演会に行って参りました。教育長もおっしゃっていたんですけど、本当に満員で、駐車場もすごく遠くに停めるぐらいで、先生も始まる前から出てきていろんな話をされて、そこでもうお客様のすごく楽しいっていう雰囲気が伝わってきました。磯田先生がおっしゃっていたのが、やっぱり人を尊敬する時っていうのは、地元と同じだから尊敬するとかっていうことではなくて、人や世間に与えた貢献度を見て尊敬するといいよっていうお話が私の中で一番印象に残りました。

その後10月2日には、日南市表彰審議会に参加して参りました。ここでは3名の方を審議していて、名前だけは知ってる方もいて、表彰される時にはいろんな経歴から何から全部紹介してもらって、何かすごいところに来たなっていう。ただ教育とか芸術功労部門の方が1人いらっしゃったので、なんかもうやっぱりこういう方が表彰されるんだなあと思ったところでした。またその表彰式が11月3日にシーズンであるということでした。

その後10月9日には、初めての単独訪問で細田小学校に行って参りました。どんな感じになるのかなっていうのがちょっと分からなかつたんですが、学校を見せてもらって、細田小学校はもうとにかく送迎が大変。お母さんたちに子どもを連れてきてもらわないといけないということで、それで学校に来れなくなってしまう子もいるっていう話がありました。先生たちが、その不登校の生徒さんがいつ学校に来てもいいように居場所をしっかり作っておくことが大切ですと言われた時に、何かそれだったらいつでも戻ってこれるなあと思って、とても勉強になりました。今度150周年記念行事があるみたいで、そこには元宝塚の舞咲りんさんが来るということで、ちょっとそれは楽しみだなと思いました。

その後10月21日に大窪小学校の単独訪問に行きました。もうとにかくここは校舎とか廊下とかが本当に綺麗で、ゴミとかも全然なくて、これは本当になくなってしまうのがもったいないよなっていうぐらいで、今年度で閉校なのがもったいないなど。教室で授業を見る前からすごいなあと感動しました。やっぱりこれからどんどん生徒さんが減っていく学校が増えていく時に、小学校の自慢できるところって何かなあとずっと思っていたので、担任の先生がさらっと「温かさが学校の強みです」って言った時に、地域の方もこの学校が大好き、学校には家族みたいな感じの温かさがあるっていうのが、すごくこっちにも伝わってきてとても感動しました。授業はもうマンツーマンの家庭教師のような授業で、ここでは一人一人の成長をすごく身近に感じができるんだなあと、ちょっと保護者としても羨

ましいなと思うところでした。2人にとって忘れられない1年にしてもらいたいなと思いました。

### 【都甲教育長】

先ほど佐藤委員が言われたように、その下の学年の子に対するそういう物言ひっていうのは、結局ああいうとこから暴言とかになっちゃう場合もあるんですね。どこかこう気持ちが。やっぱりいくらね、6歳7歳。もっと言えば佐藤委員が関わっている幼稚園の4歳5歳でも、もう1人の人間なので。しっかりリスペクトしてね、尊重してあげないといけないので。やっぱりそういうのが腹にあるにしても、プラスにとらえて、だからこそ何をするかだと思うんですよ。そんな粗探しするんじゃなくて、そういう考え方ですよね、やっぱり。

### 【佐藤委員】

確かに感覚とか認知は違うんですよ、大人とは。それはそうです。でもそれが劣ってるとか、間違ってるとか、不十分だじゃなくて、子供はこう捉えるんだ、子供はこう考えるんだ。それで本当におっしゃる通り、じゃあどうしたらいいかなっていうところを考えていただけると。

### 【都甲教育長】

それと関連するんですけど、大窪小学校ですよね、やっぱり行かせてもらって、去年は上級生がいて、今年は最上級生2人しかいない。本当にすごいんですよ、その成長の度合いが。もう先生たちが毎日なんていうか、とても良い1日を過ごしている感じがよくわかるんですよ、最後の1年を通して。先生たちもなかなか体験できない1年なんだろうなあと思ってですね。大変でしょうけど、店仕舞いが。振り返った後に幸せだろうなと、そういうことを感じました。そうですよね。

### 【谷口委員】

本当にそうです。家族みたいな感じの空気がすごいんですよ。みんなで先生と並んだ時に、家族みたいな雰囲気があったので、いいなって思いました。

### 【佐藤委員】

少人数の良さですよね。

### 【別府委員】

校長先生のあり方でその空気感というか、そういったものが変わると思うし、また職員室とか学校の先生も、それでまた職員の方向性も変わっていくんだなっていうのは本当に今回、特に両方どっちがどっちって言う話じゃないんですけど、何か感じたところでありました。

## 9 前回の議事録承認

第6回の議事録について了承

## 10 報告について

### 報告1 市議会定例会報告（9月議会）について

(鬼東部長)	市議会定例会報告（9月議会）について説明
(都甲教育長)	今回こういう内容で質問があったんですけども、何か聞きたいことはありますか。
(佐藤委員)	今後少子化が進んで、先ほど大窪小なんかも非常にもったいない施設だったと話があったんですが、やっぱりその辺を活かすとか、何かそういった方向性とかは出てこないんでしょうか。
(都甲教育長)	やっぱり跡地っていうのは一番またセットになって考えなきゃいけない問題なんですよね。今潮小学校は貸していますよね。旧鵜戸小もたまにグラウンドとか。あとみかん加工の話もありましたよね。
(佐藤委員)	潮小は最近ちょっと意識から外してしまっていたけれど、結構やっていましたよね。今も続いているんですか。
(赤池担当監)	やられていますね。
(佐藤委員)	あそこはまたね、海遊びや磯遊びができるからすばらしいですね。それから多様な学びとかですね。いろんな体験ができる場所として生かすとか。フリースクールはなかなかでしょうけど。
(都甲教育長)	だからこの前大窪に行った時、涼しいねって話をしたんですよ。日南の奥座敷的な感じで、そう思いましたね。だからみかんちぎりをやるとか。
(佐藤委員)	そういうので村おこし町おこしをやってるところありますもんね。にぎやかになるので、ちらっと考えてもいいかもしれませんね。
(都甲教育長)	そうそう、体育館もあったりしますので。校舎もなんか見た感じ新しいからですよ、大窪。なんか十分できそうな感じもあって。そこらへんがうまく繋がっていくといいですね。

## 12 議事について

### 議事1 県外先進地視察について

(武田主任主事)	県外先進地視察について説明。
(都甲教育長)	すみません、本当に朝早い出発で。ちょっと余裕をもって向こうで動きたかったのと、非常に向こうの教育委員会のほうが歓迎してくださいまして。向こうの方が夕方から懇親会をしましょうということで。お金の方もなんとか今回旅費が出ましたので、予算の中でしっかりやりますので、よろしくお願ひします。
(谷口委員)	当日は市役所のどこに集合になりますか。
(都甲教育長)	本庁舎前のロータリー付近にしましょうか。
(佐藤委員)	すごいですね。参観時間とか説明の時間がたっぷりあって、良いですね。
(都甲教育長)	最初は中学校は行事があって駄目と言われたんですけど、それじゃあってことで行政説明を2日目に持ってこられていたんですよ。でもやっぱり説明は最初に聞かないと分からないだろうということで、そういう話をしたら中学校も入れてくれて。1日目に行行政説明と中学校視察、2日目に小学校を入れてくれているんですね。
(佐藤委員)	この資料を見ると書いてあるんですけど、人口1万4千人の町に以前は7校の中学校があったんですよね。だから割と手厚かったのかなと。2019年、6年前に中学校が1校になったということで。
(都甲教育長)	写真を見ると、あんまりそのハード面の環境は変わらない感じですね。なんかこうすごい3Dプリンターがあるとかいう感じではないですね。
(佐藤委員)	そこが参考になりますもんね。金がないからできない、ではないので。
(都甲教育長)	だからさっきの飯塚の話なんですけど、他の教育長さんもばぞつと「ちょっと見せられてもなあ」と言ってましたね。金額的に現実味がなかなかね、難しいと。どうやっているかが一番大事なので。玖珠町は小回りの利く町なわけですね、人口的にも。だからそれを使うに置き換えてどうかなっていうふうに見てもらって、また質問してもらうと。そういうふうに考えています。

## 議事2 他課との意見交換会について

(武田主任主事)	他課との意見交換会について説明。
(都甲教育長)	今年度は4つ候補が上がっていますけれども、どうですか皆さん。どこの課に来てもらいますか。
	課の仕事からいくと、この未来創生課っていうのは、これから市のあり方とかを最初に考えていくところなんですよね。この人口減少対策とか、先を見据えながらやっていくので、まずこらへんの話を聞いておくと、今後の私たちの考えなどに生かせると思うんですけどね。うちで話題になっている今後の学校統廃合とか、少子化ですか。教育としてどういうことがやれるかっていうのを考える中で、そういう話も聞けるのかなと思ってですね。人口のこととか、市全体でどう考えているのか。本当におっしゃるように全部の課に聞きたいんですけどね。
(別府委員)	人口減少は本当に深刻な問題ですもんね。
(佐藤教育)	でも関係人口を増やすっていう上では、やっぱり農業とか水産業とかは日南市の大きな強みだと思うので、それを考えるとまずは未来創生課で基本的な考えをですね。
(都甲教育長)	では今回は未来創生課にお願いしましょうか。よろしくお願ひします。

## 議事3 令和7年度全国学力学習状況等調査について

(赤池担当監)	令和7年度全国学力学習状況等調査について説明。
(別府委員)	全国学力調査。これ小学校は多分、学校ごとで学力調査テストとかCRTとかそういうものをされているじゃないですか。あれっていうのは、やっぱり全国学力調査の問題とかに慣れるようになっていう意味合いでされているんでしょうか。
(赤池担当監)	いえ、別のものとなります。もともと全国学力学習状況調査が始まると前からもう、このCRTテストなどはあって、結局子どもたちの学力がどの程度身についているのか、或いは落ち込みがどこにあるのかというのを、先生方が各学校の状況をきちんと読み取って、それを元に課題解決につなげていく、授業改善につなげていくというようなものであったんですけども、CRTとかも業者テストになりますので、それはもう文科省の方で一括して

やるようになったのが全国学力になります。そもそも問題の形式とかも全然今違っておりますので。もう本当に全国学力は長い文章を読んでちょっとと答えるみたいな感じで、文章を読むとか本を読むのが嫌いな子にとっては、ただの苦痛でしかないというようなところです。やはり本を読めない子どもが増えてきている中で、そういう問題を解くというのは非常に、本県の子どもたちは苦しい。どこの市町村、どこの県も同じような状況ではあるんですけど、その中で学力が低下してきているっていうのは、やっぱり何かしら授業に問題があると。子どもたちの中にその原因を探っても仕方がないことだと思うので、やはり授業をどう改善していくかということが大切なのかなというふうに思っています。

(別府委員)

表現や記述式の問題があった時、やっぱりその問題の解き慣れ的なところっていうので、そういうCRTとかが作られているのかなと思っていました。テストもいろんなメーカーがあるんですが、これ多分日南市は学校ごとに使っているところが違う。隣の串間市なんかはもう一斉ですよね。どっちがまたいいのかなとか思ったりするんですけど、ただメーカーによって得られる特色もあるし、苦手な弱点を出してからそこを徹底的に教えるという、その特色もあると思うので、何を選ぶかによってまたちょっと結果も違うのかなと思ったりしました。そういうテストをしてない学校もあるんですかね。

そうですね、全部が全部しているわけではありません。

例の宮崎学テはもうやらないんでしたか。

本年度までです。

宮崎学テっていうものを、前の学年でやらせたんですよね。5年生と中2に。言えば演習みたいなものなんんですけど、でももうやらないと。

成果が出ていないということで。正直に言うと、県の方で切られた形になります。

これはやっぱりあれですかね。そのエリアでもそうなんですけど、やっぱり個別最適というあたりがなかなかうまく回ってないっていうことなんですかね。

佐藤委員は前回の GIGA スクールのものを見られたからお分かりだと思うんですけど、やっぱり先生が主役になって授業をしているというような場合、子どもたちが主役になっていないので、

(赤池担当監)

(都甲教育長)

(赤池担当監)

(都甲教育長)

(赤池担当監)

(佐藤委員)

(赤池担当監)

	中学校でいうと 50 分間の授業のうちの 6 割 7 割は先生がしゃべっている。残りの 3 割の時間が子供たちが活動する時間なので、結局ずっと受け身の授業。そんな形がやっぱりどこの学校でも展開されているというところで、それを変えていきたいと思っております。
(佐藤委員)	今もそうかは知りませんけど、秋田県とか学力が高いんですね。家庭学習もすごい、その傾向はやっぱりあるんでしょうかね。
(赤池担当監)	そうですね。まずは私たちは教員なので、先生たちが学校で面白い授業をすれば、帰って復習をしたいという気持ちになれるだろうと思っているんですけども、そこがやっぱり授業も受け身だけなので。で、帰ったら宮崎県独自の宅習をしなさいと。でも漢字を書きましょうとかいうような形で、そこに子どもたちの主体性がなくなっているので、自分がやりたいことがやれないというようなことなんかもあるんじゃないかなと。つまり、知識を身につけることはできても、思考判断表現とかになるとなかなか。だから論述して書くとかいうのは、無回答がとにかく宮崎県は多いというような調査結果が出ているのではないかと思います。
(都甲教育長)	読まない、書かない。だから長い文章を読まない。長文で答えるような文章は書かない。だからもう手をつけないんですよ。
(佐藤委員)	それが宮崎県の特徴でもあると。
(赤池担当監)	全国的に長文を書く問題は、無回答だったりとかいうものが多いです。けれどその中でも、宮崎県は特にそれが顕著に見られるという。思考しないので。あと教育長が言われた通り、読まないので書けないわけですよ。
(都甲教育長)	先ほども言ったけれど、国語の文章は読まないといけないじゃないですか。読まないから答えられないんですよ。漢字とかなら入れられるけど、どうかってやつを、どういうふうに感じますかって言ったら、できないんです。
(佐藤委員)	今の子供は全国的にそうかなと思うんですけど宮崎県の特徴もあるわけですね。
(都甲教育長)	だからさせるんじゃないですか、読者県、読書県って。そう言って頑張らせる。高校の先生が言っていたんですけど、やっぱり読解力がないから算数とか数学も問題が読み解けないっていう。
(別府委員)	ちょっと話は変わるんですけど、とある本にテニスの部活の話があつて、入った時、1 年生の時はずっと球拾いだったって。でもなんでそういう嫌なことができたかって言ったら、2 年になっ

たらレギュラーであそこのコートに立てるからっていうのがあって。それと一緒に、勉強もめんどくさくて嫌なことだけど、勉強したら何かがあるっていうのをうまく先生が誘導できれば、もっと勉強しなきゃいけない、したほうがいいんだというように思えるのかなと。何のために勉強するかっていうのがわからないとやっぱり面倒くさくてやらないんで、そこら辺を何かうまく導ける方法があったらいいなとちょっと思つたりしました。

(都甲教育長)

なかなかそういう先を見るっていうのが今は難しい時代なんで、例えば終身雇用でもないし、仕事も変わっていくし、そういう中なので。スマートステップでやっぱり授業をやって、分かった、だから帰って勉強しようとか、そういう。これは基本的なことなんんですけど、混沌とした時代で子供たちが10年後20年後の自分っていうのを想像するのは難しいんじゃないかなと。私が答弁をする中で文科省の資料をもらってくれたんですけど、文科省の調べによると、学力が下がったというなかで何が理由かっていうのがあったんですけど、保護者にもアンケートとるなかで、やっぱり授業が分かったっていう子は家庭で勉強するらしいんですよ。分かったから。それはやっぱり昔も変わらないし、今も授業でできた、分かったってなれば復習するっていうことですよね。子どもたちの中にはもやもやしたまま帰っている子がいるんでしょうね。これでいいんだろうかとか、終わったなあとか。そういう意味じゃやっぱり、先ほど担当監が言ったように、子供たち云々よりは先生たちがしっかり力をつけて、どういう子にも同じように力をつける。やっぱり先生たちにはそういう力量を持たせないと、と思うんですよ。この学力調査なんか毎年人が変わることから、点数を追っていっても、関係ないことはないんだけど、ちょっと違うわけですよ。ですから、本当なんとか先生たちの力量をつけてもらって。前から言っていますけど、日南の子たちは非常に素直で、授業なんかの時も非常にやりやすい面もあるので、その中でどんどんどんどん先生に創意工夫をして力をつけてもらいたいなあと。やっぱりこの子はこれぐらいの力を持っているのに、ここまでしか引き上げられないとなれば、先生の責任だと思うんですよ。やっぱりここまで引き上げてやって卒業させる。次の学年に渡すって大事だから。

よく学校訪問に行って思うんですけど、少人数校とかすると、もう本当ね。大窪小学校の家庭教師感。やっぱり少人数校の

(別府委員)

(都甲教育長)	方が子供の成績っていいんですかね、理解力とか。
(佐藤委員)	やっぱりそうでしょうね。子どもたちのことが見えてるし、やっぱり先生と接する時間も多いからですよ。だからやっぱり本当35人40人っていう人数をまとめていくっていうのは難しいと思います。
(都甲教育長)	だからそれはICTをやっぱり上手に使ってですね。個別でもっとやりたい子はやって、そして今サポートが必要な子に。

#### 議事4　日南市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について

(重永課長)	日南市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について説明。
(都甲教育長)	よろしいでしょうか。メンバーが変わるっていうことですね。お願いします。

### 13 その他

#### (1) 11月行事予定について

#### (2) 県外先進地視察

- ① 日時 令和7年11月4日（火）～11月5日（水）
- ② 場所 大分県玖珠町

#### (3) 第8回 教育委員会会議（定例）

- ① 日時 令和7年11月25日（火）午後3時から
- ② 場所 日南市役所・別館1階会議室3

#### (4) その他

##### 【重永課長】

別添でお配りしました図書館祭りの開催についてということで、ご案内を申し上げます。11月30日日曜日の午前9時から午後3時まで、今回はまなびピアではなく、南郷の図書館、南郷ハートフルセンターの小ホールを使わせていただきまして、実施したいと考えております。チラシにもあるんですが、給食番長ですかね。日南に来るということで。よしながこうたく氏をお迎えして読み聞かせ＆ライブペイントをするということで、すごく張り切っていらっしゃいます。気合いを入れてやりますっていうふうにお聞きをしております。

サイン会とか絵本の販売もやりますということで、ご興味のある方はその他にも輪っかの紙飛行機や自由工作コーナーだったり、ミニゲーム、輪投げゲームとかですね。あと裏面にはベテランボランティアによるおはなし会、そしてシュシュ＆中学生の一押しの本をPOPとともに紹介するとかですね。あと貸し出し体験を実際にカウンターに入ってしていただくコーナーとかもあります。

あと毎年大盛況になっておりますリサイクルの本市ですね。2階の大研修室にて、蔵書のリサイクルする分を集めましてやります。ただしお1人様10冊までと。絵本に限り大人の方は5冊までとか、そういう制限もありますけれど、やらせていただきます。ちょっとミニゲームではないんですけど、スタンプラリーなど、いろんなイベントを予定しておりますので。今のところ、何かもうすでに70組ぐらいの申し込みがあったとかっていう話を聞いておりまして、定員の100名は超えるんじゃないかなっていうような勢いらしいので。ぜひお時間ある方はお越しいただけると幸いです。

ちなみに北郷の産業まつりと丸かぶりしておりますので、それがちょっと頭が痛いなあというところでございます。

##### 【別府委員】

重永課長、すみません。このタイムスケジュールとかそういったものは、もう図書館の方が全部決められるんでしょうか。図書司書の先生からちょっと相談があって、給食番長の日南弁版を作った生徒さんが今中学2年生らしくて、イベントの前とかにその子とちょっと話すというか、顔合わせする時間を設けてもらえないものだろうかっていう話があったんですけども、これって図書館に依頼したほうがいい感じでしょうか。

##### 【重永課長】

一応図書館にてその話はちょっとお聞きしております、今いろいろと調整しています。最初に学校へ「携わった子たちに参加を」っていう話をしたら、何かがっつり学校として入ってやるんですかとか、いろいろ突っ込まれまして。いやあくまでもご興味ある方の参加になりますので、お声掛けしているだけですよとお伝えしました。

でないと学校の先生の時間外の問題だったりとか、いろいろ難しいところがあるものですから、そこら辺は今調整をしているところです。あくまでも自由参加っていう形で、対応できる方はぜひお越しくださいね、ぐらいの感覚でお声をかけようかなと思っています。

【都甲教育長】

それは複数人なんですか。

【別府委員】

3、4人くらいだったかと。その時に作った生徒さんにぜひ顔合わせさせてあげたいという、その司書の先生からの話だったので。まだその学校とのやり取りについては全然分かっていなかったんですけど。

【重永課長】

これちょっとそういうことがあるので、案内をかけていいですかねって言ったら、何か話が大きくなっちゃうので、何かイメージと違った形に。何か学校として対応するんですかみたいな感じで、構える返事があったので。いやいやそういうものではないんですけど。だからうちの図書館の職員には、だからそこらへんの言い方を間違えると、もうそれこそ話が膨らんで大変なことになるんで。じゃあどうやって送迎するんだとか、そういう話まで進むので。そういうものではないですよっていうところをもう1回説明しなさいというふうに説明をした上で、段取りしようかなと。

【都甲教育長】

給食番長のその人が会ってくれるって言ったのなら、ちゃんとそういう段取りをして会えると良いですよね。